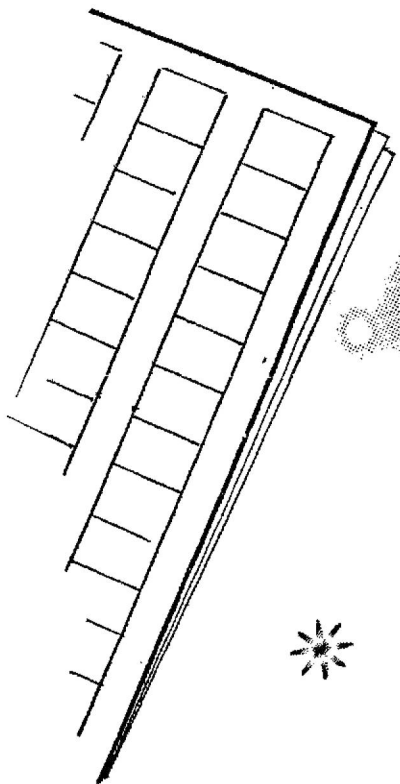
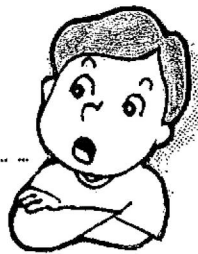


# 良い文章の書き方



## ① 句読点を入れる場所を考える

良い文章を書くには、まず句読点を正しく入れることが重要です。句読点の場所をしっかりと把握し、しっかり句読点を入れることにより、良い文章が書けるようになります。句読点を入れる場所を間違ってしまうと、たいへん読みにくい文章になってしまいます。きちんと学び自分のものにしていきましょう。

句点は文章の終わりに打ちます。これは当たり前のことです。よね、読点は文章を読みやすくするものです。また、誤読を防ぐのにも使えます。ただし、あまり打ちすぎると逆に文章が読みづらくなるので注意が必要です。

## ② 主張したいことをはっきり書く

良い文章とは論理的に書かれた文章といわれています。論理というのはいわゆる筋道が立っているということです。要するにあいまいでないことと云います。悪文の代表的な例はいろいろと書かれていますけれど結局この筆者は何を言いたいのか分からないという文章です。まず何を言いたいかをはっきりさせてそれを提示します。普通は文章の最初か終わりの方に提示します。昔から文章の形式を起承転結といつて結論は最後に書くといわれていますが、最初でもかまいません。とにかく主張したいことをはっきりさせます。

## ③ 一つの文章は短めにする。接続詞を多用しない

良い文章とはわかりやすい文章のことです。一つの文が長く、まして一つの文の中に「が」「しかし」「そして」「だから」などの接続詞が多用されていっては何を言っているのか非常にわかりづらくなります。一つの文はなるべく簡潔に書くように心がけることです。また、文と文をつなぐときにも、接続詞を必要以上に多用しないようにしましょう。

## ④ 使いなれた言葉を使う

難しい言葉を使えば良い文章が書けるといふことは全くありません。言葉はある意味道具と似たところがあります。使い慣れた言葉ほど味わい深くなります。また、意味がわかっているつもり言葉でも、できるだけ辞書で調べられるようにしたいものです。

良い文章を書けるようになるためには訓練をしなければなりません。その訓練とは、良い文章といわれているものをたくさん読んで、そして実際に書いてみることです。書いたものを人に読んでもらうとさらに上達します。

